



アルゼンチンにおけるOVOP (一村一品)プロジェクトの始動

【プロジェクトの開始・実施】

去る7月5日、アルゼンチンの外務・宗務省において、OVOPに関するプロジェクトの開始式典が実施されました。

同イベントでは、「アルゼンチンOVOP」のコンセプトのもと、本協力プロジェクト全般に関する方針が発表されました。それは、市場への参入を可能とするようなバリューチェーンを展開することによって社会の発展を目指し、またソーシャルエコノミー（小規模経済活動）グループ及びこれら活動を支援する機関の能力を強化することを目的としています。

本プロジェクトは、保健・社会開発省（略称MSDS、以後MSDSと表記）と共に5年間に渡って実施され、初年度が計画作りに充てられます。

【OVOPの目指すもの】

OVOP（英語の「One Village, One Product（一村一品）」に由来する略称）運動は、1970年代に日本の大分県で、当時の県長知事であった平松守彦氏により提唱され生まれた地域開発戦略・哲学です。

この運動は、産地のアイデンティティ及び付加価値を生み出す要素（例えば既に存在する地域の資源やブランド化できる素材など）を基礎に、市民や生産者が自主的な取り組みを行い、地域特産

の製品やサービスの提供を後押しし、地域開発を推進するものです。

【プロジェクトの対象5州】

アルゼンチンではMSDSとの協議により、5つの州をブエノスアイレス、カタマルカ、チャコ、ミシオネス及びサルタをプロジェクトの対象州に定め、日本のコンサルタント及びMSDSの専門家のコンサルティングを受けました。

プロジェクトの開始にあたっては、7月にブエノスアイレスで初回ワークショップを開始し、MSDSの職員と上記5州の代表者がこれに参加しました。ここでは、アルゼンチンでのプロジェクトでの方針が説明されるとともに、日本及び世界での種々の時取り組み事例が紹介されています。

【コロンビアでの研修】

9月9日から13日にかけては、コロンビアで開催されたOVOPに関する研修に、MSDSの職員との代表（研修生数は合計15名）が参加しました。ここで行われた活動は数多くありますが、その一つに、全国職業訓練機関－SENA（コロンビアにおけるOVOPプロジェクトの主要カウンターパート）で行われた、地域価値の再発見、村など集団での目標設定、地域特産品の製品化構想及びバリューチェーン分析に関する講義がありました。また、キ

ンディオ県（カラルカ及びフィランディア村）並びにボヤカ県（パイパ及びソタキラ村）における多様なOVOPの取り組みを訪問し、付加価値戦略に基づく当該地域での観光及び特産製品の生産現場を視察することも出来ました。



【今後の活動】

9月末及び10月初旬には、対象5州において、この手法を普及するための州内ワークショップが実施されます。ここでは、プロジェクトで支援する様々な取り組みを選出し、活動の計画を

行うことになっています。 